

西中千人 × 神崎亮平

アートと科学は
見えない世界の価値を探究する



にしなか・ゆきと

1964年、和歌山県生れ。星薬科大学卒業後、カリフォルニア美術大学で彫刻とガラスアートを学ぶ。制作したガラス作品をあえて叩き壊し、新たな作品へと生まれ変わらせる独特の「ガラス呼継」で評価が高い。国内のみならず、ヴィクトリア&アルバート博物館やオーストリア応用美術博物館など海外の施設にも作品が収蔵されている。



かんざき・りょうへい

1957年、和歌山県生れ。理学博士。東京大学先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー、東京大学名誉教授。昆虫の脳をとおして生物の環境適応能(知能)について研究。高野山金剛峯寺および高野山大学を舞台に、科学技術×アートデザイン×宗教の力で未来を見据える学術会議「高野山会議」の運営も行っている。

神崎 サイエンスとアートには共通点もあると思っているので、今日の対話を楽しみにしておりました。

西中 神崎さんは昆虫を研究対象にされています。

神崎 カイコガを持ってきました。オスです。じつとしていられるけれど生きています。口がないから飲み食いはいできませんが。

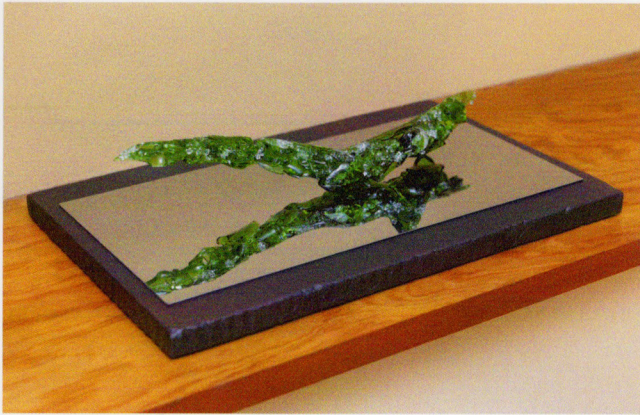
西中 となると、エネルギーはどこから取り入れるのですか？

神崎 幼虫の時にたっぷり栄養を体内に溜め込み、それが切れたら終わりです。普段は死んだように動かず、唯一の活動は交尾して子孫を残すこと。人工的に作ったメスの匂い（フェロモン）を振りかけてみましょう。

西中 動いた！

神崎 人間にはこのメスの匂いはまったくわかりません。匂いだけではなく、聞こえているものも、見えているものも、私たちが感じることでできるのは、自然界のほんの僅かな世界だけです。見方を変えることで、気づいていない世界にも様々な価値があることがわかります。

西中 アートにも目には見えないものに価値を見出す側面があります。そしてそれを形にする。数年前、京都の法然院にリサイクルガラスで作った枯山水《つながる》を奉納しました。枯山水は禅の悟りを視覚化したものです。



右頁の床の間に飾ったのは、西中千人によるこちらの《臥龍》。リサイクルガラスで作られている。
2022年 高7×横35×奥行6.5cm

悟りの境地は私には分かりませんが、役割を終えたガラスを違う形で甦らせることで、循環する命と宇宙が繋がっていくイメージを表現しました。

神崎 宇宙と一体化するのがまさに悟りではないでしょうか。枯山水はそこに繋がるアートだと思えます。科学も宇宙と一体化するくらいの考えで研究する必要があると思うのですが、どうしても人間を中心として、人と自然、自と他、物と心を分離して、細分化して考える西洋の価値観が重視されてきました。でも、もともと日本には水や石など自然のあらゆるものには神や仏が宿り、人は自然の一部で切り離せない

YUKITO NISHINAKA × RYOHEI KANZAKI

いもので、その関係性のなかで生かされているという感性があったのではないのでしょうか。

西中 繋がっているということが、ないがしろになっているわけですね。

神崎 人は自然の一部で、その関係性のなかで生かされているという感性なしに、人間中心に理性だけで突き進み、自然に過剰な負荷をかけてきたことが、自然破壊など環境問題の大きな起因になってきたと思います。対象の先に広がる世界を見据えている芸術家の感性は大切だと思います。

西中 少し前にNFTアートが登場したり、最近ではピーキーな現代美術が話題になったり、考えようによってはアートの世界も細分化されています。世界的にはKOGEI（工芸）の人氣が高まっていて、「金継ぎ」がすごく注目されている。漆と金粉を使って割れたうつわを修復する技法で、命を懸けて武士たちが戦っていた時代に誕生しました。これは個人的な見解ですが、武士は割れた茶碗に自身の命を重ねていたのではないのでしょうか。戦で明日には失われるかもしれない命。その終わりを継ぐことで、今この瞬間、自分は輝いていると示したかったのではないだろうか。歴史的にも科学的にも証明できない説ですが、アートのにはそう信じて制作することが許されま

いるわけではないと思うのですが。
神崎 生物ともなると、複雑すぎてロジックだけでは通用しません。それが生命だと思えるのです。細分化して考えるだけでは、お釈迦様の掌の上で物事を考えているだけで、突破口を見出せず次に進めません。

西中 突破口という意味で、私は「壊す」をテーマに制作しています。認識していると思いついていて、自分は何も認識していないのかも、物理的にも壊しています。一度作ったガラス作品を壊し、破片を継ぎ合わせて新たな作品に生まれ変わらせる「呼継よつぎ」という手法で制作しているのです。想定している完成形からほど遠いと感じたら、壊すことで前に進めることがあるのです。その点はアートも科学も変わらないと思いますが、神崎さんは科学だけではなく、アートなど他分野も学ぶSTEAM教育に関心を寄せていますよね。

神崎 サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、マスマティクスという4つの分野を横断的に学ぶSTEM教育に、AIIアートが加わりました。でもアートではなくアーツ、リベラルアーツを教えているケースが多いように感じています。

西中 クリエイティブを教えるのではなく一般教養になっている、と。



ガラス呼継の技法を用いた新作《呼継「紫焰」》。
2025年 高45.5cm

神崎 それでは問題を解く力は育つても、課題を見つけ出して前に進む力は養われにくいと思います。そして自分から他の対象にいかにも視座を移すことができるか。僕の場合は虫になりきることで、虫のまわりの価値が見えてきます。視座を移すことで、自然のあらゆるものが、自分に繋がるすべてが大切であることを実感します。科学も理性一辺倒から自然に視座を転回し、感性を大切することが必要で、その中から多様性の本来の意味も見えてくると思います。そのような人材を育成するのが、STEAM教育だと僕は信じています。

西中 視座の転回と伺って、ひとつ思い出しました。金継ぎが海外で人気の理由をイギリス人に聞いてみたことがあります。もったいない精神やデザイン性に関する答えが返ってくるかと思

つたら、「受け入れる」という考え方が魅力だという哲学的な回答。傷も欠点ではない、人間だって年を重ねシミもシワも出来るじゃないかと。一神教ではなく、神も仏も受け入れる日本人のベースにある精神性が伝わった気がして、とても嬉しかったです。

神崎 研究者だけではなくアーティスト、宗教家、教育者などが集まって、日本の精神性も加え、1200年後の未来を考え実践するための「高野山会議」を主催しています。その活動の一端として、大阪・関西万博で一人の子どもたちと一緒にオブジェ《利他の蓮華》を発表します（7月26日予定、イタリヤ館/9月30日、10月9日、和歌山ゾーン）。高野山の壇上伽藍にある台座が回転する建物「六角経蔵」に倣って人の力が重なり合うことで回転する仕組みになっていて、回ることで大きな蓮

の花が開閉する。八葉の花弁は高野紙という和紙の折で製作します。開くと2メートル以上になります。《利他の蓮華》を介して「利他のこころ」「いのちの大切さ」を伝えたい。自然界のあらゆるものに視座を移すことによつて、自分に繋がるすべてを大切に思っ

てほしい。それが広がっていく世界であってほしいと願っています。

西中 アートプロジェクトと言っている内容なのに、企画運営がサイエンティストというのが面白いですね。

神崎 様々な分野の方たちと協働するひとつの新たな試みですが、何をやるにも変えてはいけないもの、変えるべきもの、そのふたつのバランスが重要だと僕は考えています。

西中 同感です。《つながる》の制作にあたり、枯山水の根底にある哲学は

変えてはいけないと思いましたが。けれど今は馬で移動する時代ではありません。車で移動し、スマホも持っている現代において、中世の造形を守って創作する必要はありますか？ 変えるべき部分は変えて、現代の人たちに哲学が伝わる空間にすべきだと考えました。

神崎 生物の進化もスクラップ&ビルドではありません。基本を必ず残してアレンジされていく。メスは魅力的なおスに惹かれるという「報酬」により種を存続させますが、そこに美の変わらない原点のひとつがあるように思います。

西中 存続のために変えるべきもの、変えてはいけないものがあるのは、生き物も伝統や文化も同じなのです。そして美は命を繋ぐ報酬——大切なベ

ースに気づかされました。

西中千人展

Information

西中千人展

砕け散るほどに美しく

4月9日~14日
岡山高島屋 7階 美術画廊
住所 ■ 岡山県岡山市北区本町6-40
問合せ ■ ☎086-232-1111 (代表)

5月21日~27日
ジェイアール名古屋タカシマヤ 11階 美術画廊
住所 ■ 愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4
問合せ ■ ☎052-566-1101 (代表)

6月18日~23日
日本橋高島屋 S.C. 本館 6階 美術画廊
住所 ■ 東京都中央区日本橋2-4-1
問合せ ■ ☎03-3211-4111 (代表)

9月25日~30日
香林坊大和 8階 ホール
住所 ■ 石川県金沢市香林坊1-1-1
問合せ ■ ☎076-220-1111 (代表)

12月11日~17日
トキハ百貨店 7階 美術画廊
住所 ■ 大分県大分市府内町2-1-4
問合せ ■ ☎097-538-1111 (大代表)

西中千人公式サイト ▶ nishinaka.com

